

(講座)  
(氏名) 藤秀人

(研究室) 治療薬剤学  
(職名) 准教授

### 【研究テーマ】

1. 生体リズムを基盤とした医薬品適正使用に関する研究
2. 投薬タイミング規定因子を用いた癌化学併用療法に関する研究

### 【論文発表】

#### A 欧文

##### (A-a) 原著論文

1. T. Nakamura, M. Yamada, M. Teshima, M. Nakashima, H. To, N. Ichikawa, H. Sasaki: Electrophysiological characterization of tight junctional pathway of rabbit cornea treated with ophthalmic ingredients. Biol Pharm Bull 30: 2360-2364, 2007. (IF: 1.035)
2. K. Tetsutani, H. To, M. Torii, H. Hisaeda, K. Himeno: Malaria parasite induces tryptophan-related immune suppression in mice. Parasitology 134: 923-930, 2007. (IF: 1.786)

#### B 邦文

##### (B-a) 原著論文

1. 兒玉幸修, 北原隆志, 山下絹代, 江頭かの子, 中川博雄, 樋口則英, 藤 秀人, 一川暢宏, 佐々木 均: 生体肝移植患者においてクラリスロマイシン併用により血中タクロリムス濃度が上昇した症例. TDM 研究 24: 133-136, 2007
2. 樋口則英, 稲岡奈津子, 田原尚子, 森田光貴, 濱本知之, 北原隆志, 土井健志, 塚元和弘, 藤 秀人, 一川暢宏, 佐々木 均: 統合失調症患者における抗精神病薬処方中のパーキンソン病治療薬併用率に関する検討. 日病薬誌 43: 353-356, 2007
3. 北原隆志, 中川博雄, 入江貞治, 兒玉幸修, 樋口則英, 藤 秀人, 一川暢宏, 佐々木 均: メロペネムの適応および剤形追加によるカルバペネム系抗生物質の使用状況への影響. 日病薬誌 43: 215-217, 2007

##### (B-b) 総説

1. 藤 秀人: 基礎研究を基盤とした至適抗癌剤併用療法の構築. 医療薬学 33: 897-904, 2007
2. 藤 秀人, 佐々木均: 薬物間相互作用総論—蓄積される最新情報—. 臨床薬理 38: 3-7, 2007

### 【学会発表】

#### A 国際学会

##### (A-a) 招待講演, 特別講演, 受賞講演

1. H. To, S. Ohdo, H. Sasaki, S. Higuchi, A. Fujimura: Therapeutic index by combination of adriamycin and docetaxel depends on dosing time in mice. 2<sup>nd</sup> World Congress of Chronobiology (Tokyo, Nov. 2007)

### (A-b) 一般講演

1. H. To, H. Yoshimatsu, S. Irie, K. Ohbayashi, Y. Kanasaki, I. Ieiri, S. Ohdo, S. Higuchi, H. Sasaki: Influence of dosing time on toxicity and efficacy by antirheumatic drug in MRL/lpr and collagen-induced arthritis mice. 2<sup>nd</sup> World Congress of Chronobiology (Tokyo, Nov. 2007)
2. H. Sasaki, A. Oshita, H. To, N. Ichikawa, M. Nakashima, T. Kitahara: Contribution of transporter to corneal absorption of beta-blocker in rabbit eye. The 67th World Congress of Pharmacy and Pharmaceutical Sciences (FIP 2007). (Beijing, Aug. 2007)

## B 国内学会

### (B-a) 招待講演, 特別講演, 受賞講演

1. 藤秀人: 生体リズムを基盤とした抗リウマチ薬の薬物療法 第1回次世代を担う若手医療薬科学シンポジウム (東京、2007年12月)

### (B-b) 一般講演

1. 入江貞治、吉松宏倫、藤秀人、大林かよ、家入一郎、佐々木均、樋口駿: 抗リウマチ薬メトトレキサートの投薬時刻の違いによる抗リウマチ効果への影響 第24回日本薬学会九州支部大会 (福岡、2007年12月)
2. 稲垣志保、藤秀人、友成真理、佐々木均: 塩酸イリノテカンの副作用軽減を目的とした時間薬理的検討 第14回日本時間生物学会学術大会 (東京、2007年11月)
3. 友成真理、藤秀人、荒木良介、佐々木均: docetaxel 前投薬による adriamycin 誘発心毒性軽減の機序解明 第28回日本臨床薬理学会年会 (宇都宮、2007年11月)
4. 藤秀人、入江貞治、吉松宏倫、大林かよ、家入一郎、佐々木均、樋口駿: 抗リウマチ効果に及ぼすメトトレキサートの投薬タイミングの影響 日本薬剤学会第22年会 (大宮、2007年5月)
5. 藤秀人、佐々木均: マウスを対象とした抗リウマチ薬 metotrexate の時間薬理的検討 第51回日本リウマチ学会学術集会 (横浜、2007年4月)
6. 友成真理、坂口裕美、児玉亜由美、荒木良介、藤秀人、瀨本知之、佐々木均、大戸茂弘、樋口駿: 抗癌剤 docetaxel による adriamycin 誘発心毒性の軽減 日本薬学会第127年会 (富山、2007年3月)
7. 安東 幸恵、藤秀人、廣田豪、家入一郎、樋口駿: Adriamycin の抗腫瘍効果に及ぼす投薬時刻の影響 日本薬学会第127年会 (富山、2007年3月)
8. 吉松宏倫、大林かよ、福山隆二、藤秀人、江頭かの子、佐々木均、大戸茂弘、家入一郎、樋口駿: リウマチ発症機序の解明～生体リズムからのアプローチ～ 日本薬学会第127年会 (富山、2007年3月)
9. 嶺豊春、樋口則英、手嶋無限、野下智代、龍恵美、藤秀人、一川暢宏、佐々木均: 長崎大学病院における院外処方せん様式変更後の後発医薬品使用実態に関する調査研究 日本薬学会第127年会 (富山、2007年3月)
10. 森田光貴、中村忠博、江頭かの子、児玉幸修、藤秀人、一川暢宏、佐々木均: 医薬品集作成支援システム Dbook による医薬品集の作成および問題点 日本薬学会第127年会 (富山、2007年3月)
11. 手嶋無限、柏木香、麓伸太郎、西田孝洋、中村純三、中嶋幹郎、藤秀人、一川暢宏、佐々木均: リポソーム膜修飾による prednisolone 血中動態制御の試み 日本薬学会第127年会 (富山、2007年3月)

12. 大山要、岸川直哉、中川博雄、樋口則英、稲岡奈津子、藤秀人、一川暢宏、黒田直敬、佐々木均：キャピラリー電気泳動法を用いる血中ミコフェノール酸及び代謝物の定量に関する基礎的検討 日本薬学会第 127 年会（富山、2007 年 3 月）
13. 大脇裕一、藤秀人、佐々木均、柳原克紀、河野茂、寺菌英之、金子智行、安田賢二、中嶋幹郎：心筋拍動細胞ネットワークに対する抗不整脈薬の作用 日本薬学会第 127 年会（富山、2007 年 3 月）
14. 鶴丸雅子、金崎優子、小橋川智美、豊田智子、前田靖子、宗像千恵、江頭かの子、山根智子、藤秀人、松瀬厚人、北原隆志、佐々木均：長崎大学医学部・歯学部附属病院におけるプロトコール逸脱の分析とその対策. 第 28 回日本臨床薬理学会年会. 栃木, 2007 年 12 月
15. 樋口則英、稲嶺達夫、兒玉幸修、森田光貴、佐藤加代子、塚元和弘、境徹也、澄川耕二、清水和宏、佐藤伸一、藤秀人、北原隆志、佐々木均：院内製剤 20% 塩化アルミニウムエタノール（汗水）の効果および副作用の検討. 第 17 回日本医療薬学会年会. 群馬, 2007 年 9 月
16. 中川博雄、山本武司、有吉紅也、藤秀人、北原隆志、佐々木均：LZD の適応追加に伴う抗 MRSA 薬処方数への影響と適正使用状況の調査. 第 17 回日本医療薬学会年会. 群馬, 2007 年 9 月
17. 手嶋無限、柏木香、西田孝洋、中村純三、中嶋幹郎、藤秀人、一川暢宏、佐々木均：Polyethyleneimine (PEI) 誘導体合成とその遺伝子導入ベクターとしての可能性の検討. 第 23 回日本 DDS 学会. 熊本, 2007 年 6 月
18. 北原隆志、嶺豊春、手嶋無限、松本恵、一川暢宏、藤秀人、佐々木均：長崎大学医学部・歯学部附属病院におけるアルブミン製剤の使用状況について. 第 40 回日本薬剤師会学術大会. 神戸, 2007 年 10 月
19. 江頭かの子、中村忠博、樋口則英、藤秀人、一川暢宏、佐々木均：オーダリングシステムを用いた治験薬処方への運用について. 平成 18 年度大学病院情報マネジメント部門連絡会議. 松本, 2007 年 1 月
20. 森田光貴、中村忠博、江頭かの子、兒玉幸修、藤秀人、一川暢宏、佐々木均：医薬品集作成支援システム Dbook による医薬品集の作成および問題点. 日本薬学会第 127 年会. 富山, 2007 年 3 月
21. 江頭かの子、樋口則英、大山要、兒玉幸修、山口健太郎、藤秀人、北原隆志、佐々木均：イマチニブの服用時間が悪心発現に与える影響. 医療薬学フォーラム 2007 / 第 15 回クリニカルファーマシーシンポジウム. 山形, 2007 年 7 月
22. 稲岡奈津子、大山要、樋口則英、宮永圭、山口健太郎、濱本知之、藤秀人、北原隆志、佐々木均：悪性リンパ腫化学療法後の G-CSF の投与開始時期が白血球推移に及ぼす影響. 第 17 回日本医療薬学会年会. 群馬, 2007 年 9 月
23. 手嶋無限、柏木香、麓伸太郎、西田孝洋、中村純三、中嶋幹郎、藤秀人、一川暢宏、佐々木均：リポソーム膜修飾による prednisolone 血中動態制御の試み. 日本薬学会第 127 年会. 富山, 2007 年 3 月
24. 兒玉幸修、北原隆志、樋口則英、富山直樹中川博雄、宮崎長一郎、松山賢治、樋口駿、藤秀人、佐々木均：2 つの母集団パラメータを用いたフェニトイン血中濃度解析プログラムの予測精度の比較. 医療薬学フォーラム 2007. 山形, 2007 年 7 月
25. 手嶋無限、嶺豊春、園部千賀子、中島憲一郎、一川暢宏、藤秀人、北原隆志、佐々木均：注射用製剤の後発医薬品導入による薬剤費抑制効果と問題点. 第 17 回日本医療薬学会年会. 群馬, 2007 年 9 月

## 【研究費取得状況】

1. 投薬タイミング規定因子を用いた癌化学併用療法の構築；平成 19 年度科学研究補助金  
特定領域研究
2. 生体リズムモニタリングによる新規関節リウマチ薬物療法の構築；平成 19 年度武田科  
学振興財団
3. 関節リウマチ患者を対象としたメトトレキサートの時間治療；平成 19 年度臨床薬理研  
究振興財団

#### 【学会役員等】

1. 日本薬学会：医療薬科学若手シンポジウム世話人
2. 長崎県病院薬剤師会：理事

#### 【過去の研究業績総計】

原著論文（欧文）	29 編	（邦文）	6 編
総説（欧文）	0 編	（邦文）	3 編
著書（欧文）	0 編	（邦文）	0 編
紀要（欧文）	0 編	（邦文）	2 編
特許	0 件		